


# 番外編 ブラックジョーク？？

特別項、「**聖**あーたら・こーたら・どーたら**教**、うさーんくさい、うさーんくさい**団**」


(この項に記しているのはあくまでも悪魔でもジョークです。なおこれは書きかけ事項であり、アンサイクロペディアでもないことも付記す。)








## \* 「**聖** 根本教義」



「我々は神から選ばれし特別な者である。我々のみが特別であり優れる。比して我々以外の万物は著しく劣る。我々は万物の進化を司る者で有り、万物に対する生殺与奪の絶対権限を有する。我々はその使命として万物全てを所有せねばならない。我々の思い描くよう万物を操作する義務が存在する所以による。そのためあらゆる手段の行使は許され実行に移さねばならない。」

(『**聖**  根本経典』より抜粋)

## \* 「**実行運用規定書** 」

「**聖**  根本教義」に記されたこの我々の使命を実行運用し具現するため以下の規定を明かす。」

- 「**聖**  根本教義」は絶対聖なるもの  なのであって、必ず完遂せねばならない。」
- 「**聖**  根本教義」は絶対聖なるもの  なのであって、余人に知られてはならない。」
- 「**聖**  根本教義」は絶対聖なるもの  なのであって、余人の関心がこの方向に向いてはならない。」
- 「余人の関心をそらせ、我々の使命を完遂するため、数々の施策がなされるであろう。」
- 「クリスマスツリーを見るがいい。余人は枝葉末節に隙間無く施された数々の装飾品のみに関心が向かう。イミテーションの装飾品、電装品などである。ツリーの本体である根本には関心が向かない。」
- 「余人を枝葉末節の装飾品に関心を向けさせ飽きさせてはならない。装飾品を次々に提示するのだ。」
- 「余人にイミテーション装飾品が本当にそのツリーから生まれてきたと思込ませるべきである。「**聖**  根本教義」のイミテーション装飾教義を次々に提示するのだ。それは権威あると思込ませねばならない。」
- 「即ち、装飾を施したあーたら教、こーたら教、どーたら教を、繰り返し繰り返し次々に提示するのだ。余人の中の邪魔者たちがそれらをうさんくさく思うとも詳しく検証する時間を与えないように。」
- 「それらの名称はどうしても良いがナウくて最先端を行っているような名称センスが望ましい。あーたら教、こーたら教、どーたら教を実行する余人の優越感を刺激するのだ。スピード感をもって対処するように。」

(『**聖**  根本経典』「 解説文」より抜粋)

## \* 注

「**聖**…**教**…**団**」、なぜ**聖**なのかは不明。血統に由るらしく「ダビデの子孫がなんとか、かんとか」と彼ら述べている模様だが、ダビデの血統だからなぜ**聖**なのかの根拠が不明である。あえていえば「本人たちが本気でそう思い込んでいる（思い込もうとして、可哀そうだ）から」私たちは苦笑いして受け止めてあげようか、が実態かも。「**聖**…**教**…**団**」の本体は「根本教義」だけで、それは見たように極めて「単純で幼稚」。自分の「わがまま」を正当化するだけの教義。この実体を秘匿し、あたかも「すごい」と思わせるのが、テレビなどでも紹介される無数のあーたら教、こーたら教、どーたら教の役目。見せかけ装飾の衣、これらをタケノコの皮を剥くよう「十二単の衣」を剥いで出てくるのは、ひねたく○餓鬼、いや失礼ウ○コたれ餓鬼。しかし劣等感と嫌悪感の塊の不幸な子なので憐れなのかもしれない。ただし始末が悪く、対処法は彼らの幹部が「イワンのバカ」に登場している模様なので参考なるかもしれない。まあ、うろ覚えなので当てにしないで頂きたい。ともあれ、あーたら教、こーたら教、どーたら教に関しては斜めから微笑んで見て、「うさーんくさい、うさーんくさい」と口ずさみながらやり過ごすのが得策で、暇人であっても本気になって真に受けないこと。

(以上、ジョークです。全てジョークです。本当にジョークです。)